



# コロナ禍における健康サポート薬局・地域連携薬局としての取り組み

○廣田 憲威<sup>1)</sup>、橋本 一代<sup>1)</sup>、作田 一広<sup>1)</sup>、松村 直美<sup>2)</sup>、津森 美保<sup>2)</sup>、小笠 美奈子<sup>2)</sup>、井塚 めぐみ<sup>3)</sup>、宇都宮 励子<sup>4)</sup>、米山 隆浩<sup>5)</sup>、朝倉 章詔<sup>6)</sup>、北條 雄也<sup>7)</sup>、上野 ひとみ<sup>8)</sup>、伊戸 郷美<sup>9)</sup>、山本 京<sup>10)</sup>、向井 勝巳<sup>11)</sup>、中嶋 公子<sup>12)</sup>、向井 都<sup>13)</sup>  
一般社団法人 大阪ファルマプラン

1)本部、2)あおぞら薬局、3)そよかせ薬局、4)あおば薬局、5)すみれ薬局、6)すずらん薬局、7)なぎさ薬局、8)もえぎ薬局、9)あおぞら薬局淡路店、10)あおぞら薬局三国店、11)かがや薬局、12)なつめ薬局、13)こつま薬局

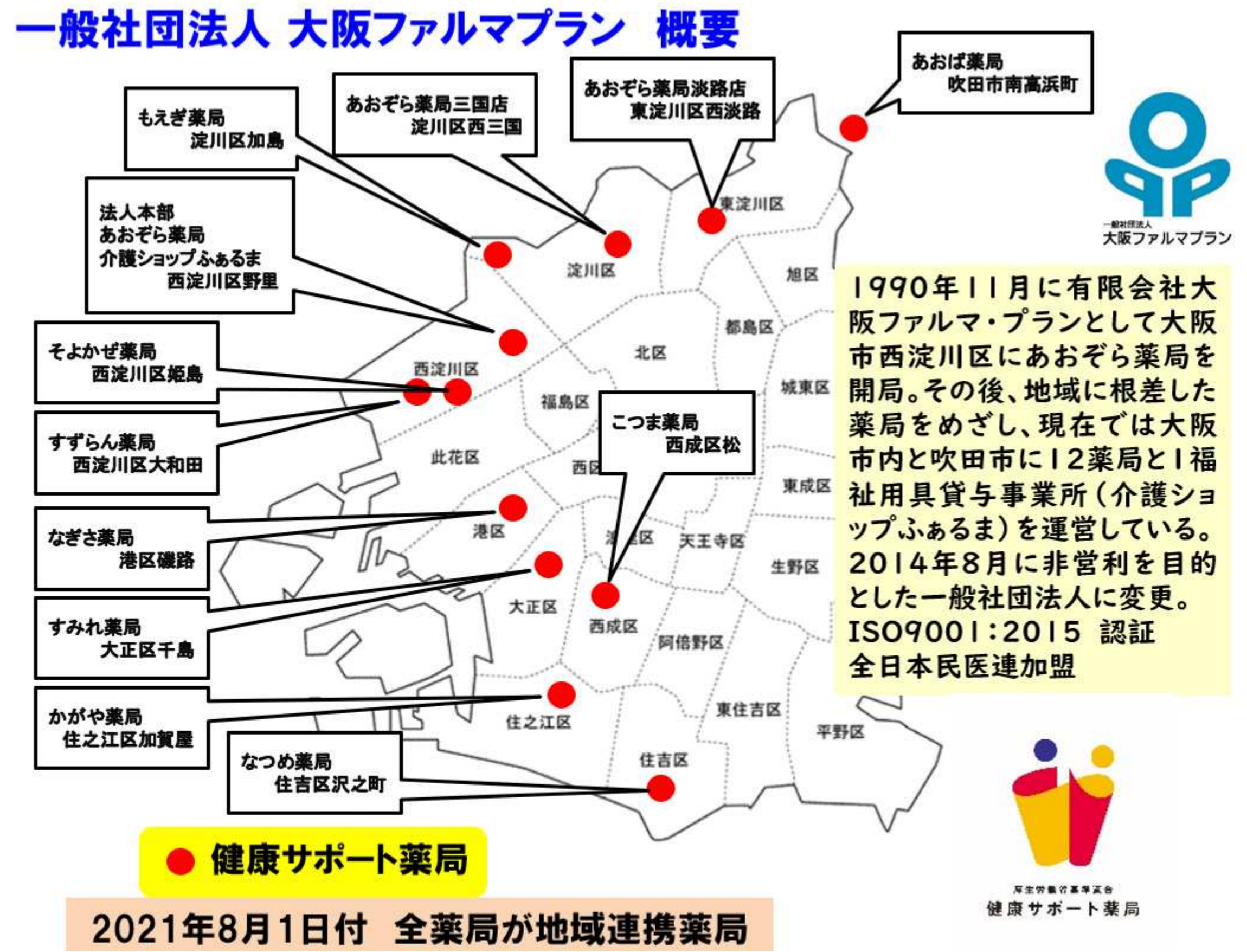
## 【はじめに】

当法人は民医連に加盟する保険薬局(12ヶ所)と福祉用具貸与事業所(1ヶ所)を運営する非営利型の一般社団法人で、今年で創業32年を迎える。創業当初から地域に根ざした「かかりつけ薬局」としての取り組みを重視し、国際HPHネットワークに加盟して地域のヘルスプロモーションにも力を注いできた。こうした取り組みを背景とし、あおぞら薬局は大阪府下で第1号の健康サポート薬局(2016年10月)と地域連携薬局(2021年8月)の認定を受けることができた。2022年5月現在、全12薬局が健康サポート薬局と地域連携薬局として活動を進めている。コロナ禍において、薬局としても多くの活動の制約を受けるなかでも、地域の公衆衛生の向上のために努力してきた。今回は特調的な取り組みについて報告する。

## (1)法人内にコロナ対策本部を設置

事業所内での感染対策や職員の行動規制などの方針を発信(計23回)

【新設】  
【重要】  
【注意】  
【留意】  
【参考】  
【補足】  
【お問い合わせ】



2021年8月1日付 全薬局が地域連携薬局

## 医療は非営利、だから保険調剤も非営利

## (3)医療・介護事業所向けの情報発信 法人のDI室がワクチンや治療薬などCOVID-19に関する専門情報を発信した(計8回)。

大阪ファルマプラン DI News No.8 2022年 4月8日  
【重要】  
【注意】  
【留意】  
【参考】  
【補足】  
【お問い合わせ】

## (2)患者向けの情報発信

吉村知事と松井市長による「インソジンがコロナに有効である」ということを2020年8月4日に記者会見したことを受けて、翌日に患者向けの正しい情報を発信した。また、新型コロナワクチン接種が開始される前に、患者・地域向けにワクチンの情報を発信した(2021年1月)。

【重要】  
【注意】  
【留意】  
【参考】  
【補足】  
【お問い合わせ】

## (4)新型コロナワクチンの希釈・分注作業に従事

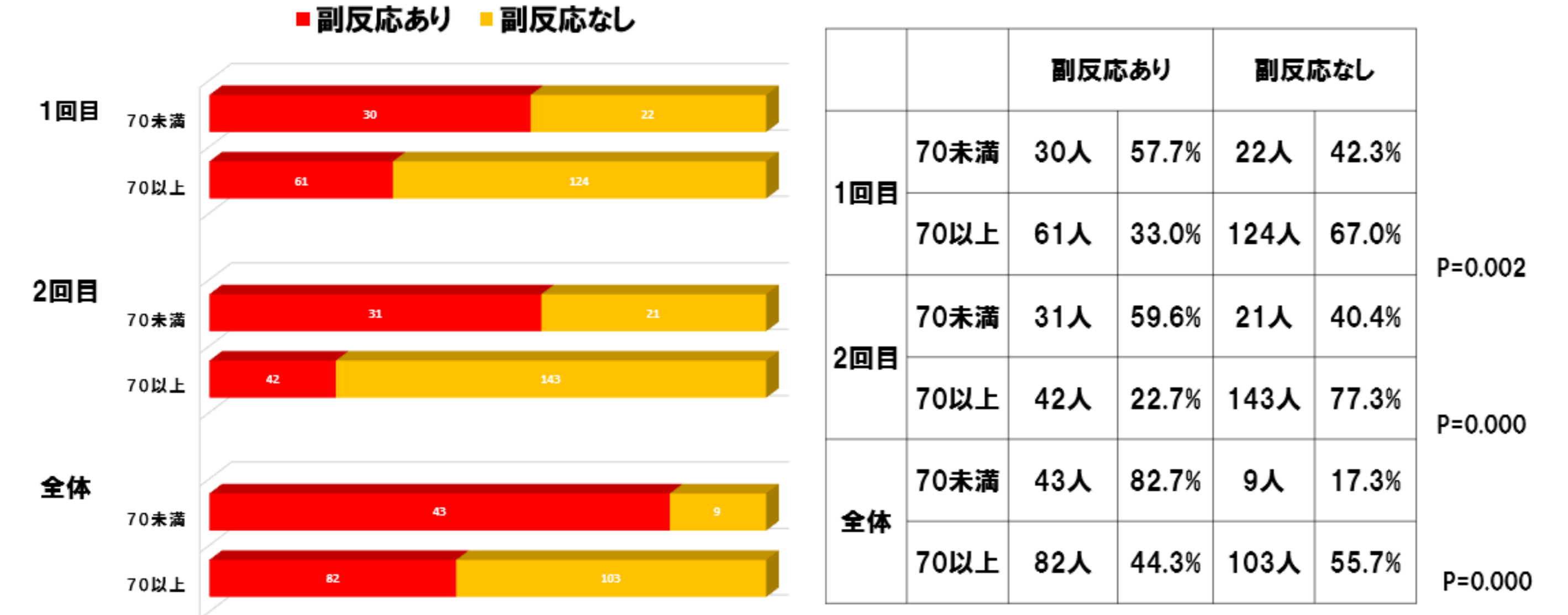
私たちは地域の薬剤師会に結集し、積極的にワクチン集団接種会場においてワクチンの希釈・分注作業に従事した。従事する薬剤師のために法人内で練習する機会を設けた。



## (5)新型コロナワクチン接種者に対する副反応調査

なつめ薬局では、2021年5月～10月にワクチン接種者237人に対して薬局で副反応の聞き取り調査を実施した。今回の調査から、ワクチン接種1回目2回目共に70歳以上で有意に副反応の発現が高いことが明らかとなり、70歳以上では解熱剤等の副反応対策が必要である。

### 70歳以上・未満の副作用出現率



## (6)医療用アセトアミノフェンの零売(分割販売)

通常、当法人では医療用医薬品の零売は行っていないが、アセトアミノフェンのOTCが枯渇していたため、特例として医療用を10錠550円(税込)で販売し、地域からも喜ばれた。

## (7)学校薬剤師としての公衆衛生活動

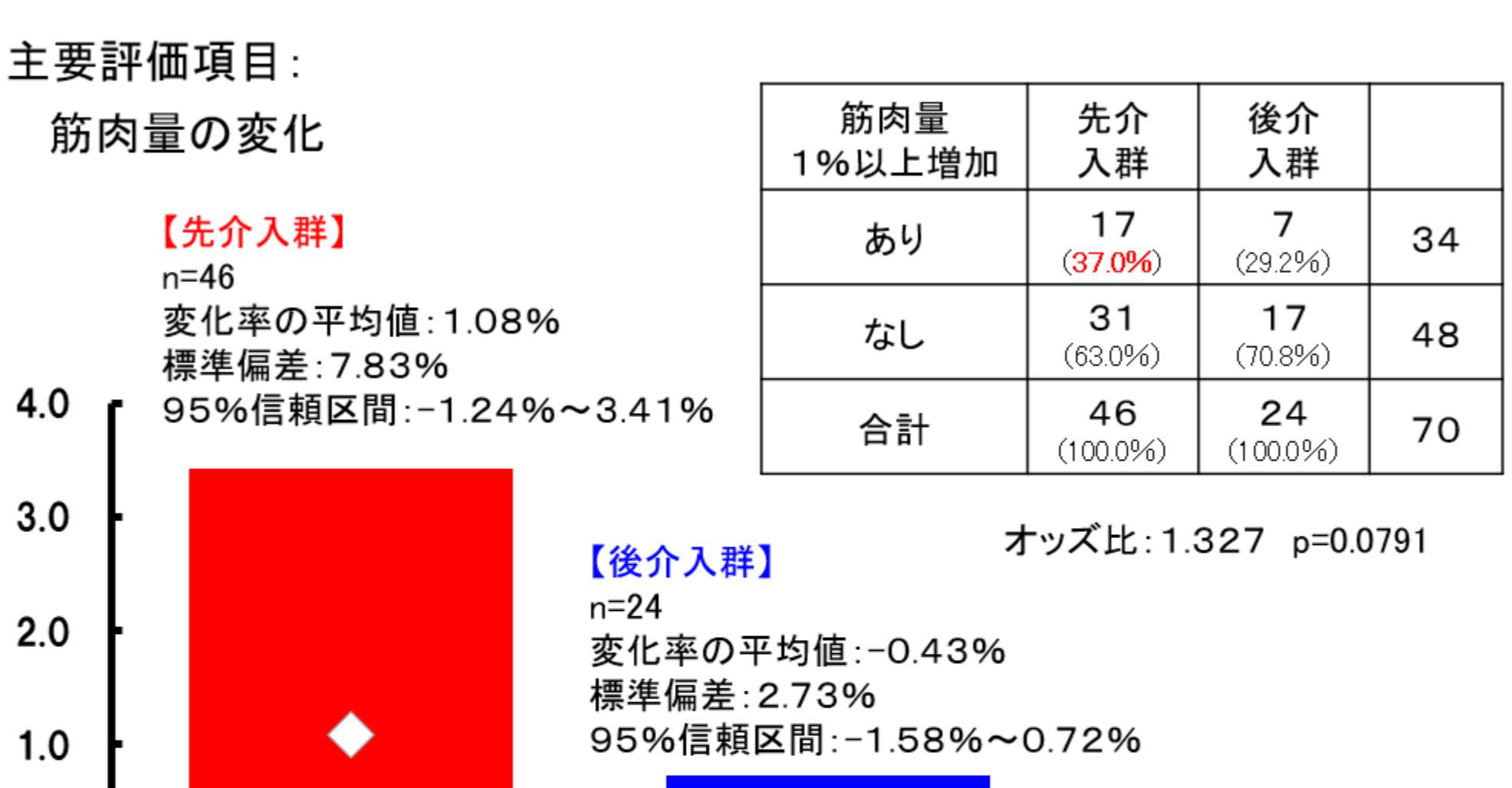
感染予防対策として、担当している小学校や幼稚園において、手洗い指導を行った。

## (8)共同組織と協力した取り組み

共同組織とは医療系協組員や健康友の会の総称で、民医連の医療機関のサポーター的存在で、日々地域において健康づくりをすすめている。コロナ禍で少なくない高齢者が外出することを避け、孤立している中で、薬局として共同組織と一緒に、健康友の会の会員に対して「お元気ですかコール」の電話かけを行い励ましあう取り組みを積極的に行った。

## (9)薬局におけるフレイル予防の介入研究

服薬指導時に薬剤師から自宅での運動エクササイズの情報提供を行うことで6か月後の筋肉量などの変化が起きるのか否かについて、薬局をクラスターとしたランダム化比較試験を行った。結果、症例数等の限界から統計学的な有意差は認められなかったが、薬剤師による介入効果を確認することができた。



## 【まとめ】

コロナ禍では、地域の公衆衛生の向上のために薬局・薬剤師に大きな期待が寄せられている。地域包括ケアシステム時代において重要な役割がある健康サポート薬局と地域連携薬局は、コロナ対策でも大きな役割を果たしてきたと言える。今後とも地域に根ざし、患者に寄り添う薬局として活動を進めていきたい。

第9回コミュニティファーマシーフォーラム  
利益相反の開示  
筆頭演者：廣田憲威  
私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。

Mann-Whitney U test p=0.376